

ヘルスマーター

2025年問題と地域包括ケア

私は、在宅診療専門のクリニックで歩行困難・寝たきり・認知症等で病院や診療所に通院が難しい患者さんに対して、直接自宅に訪問し診療しています。

2025年問題についてご存じでしょうか。2025年問題とは、2025年以降、現在800万人いる団塊の世代が75歳以上の後期高齢者となり、国民の約4人に1人(約2,200万人)が後期高齢者となるために生じる問題のことです。

何が問題かという、後期高齢者の増加により、社会保障費(医療・介護等に必要な費用)が増加すると同時に労働人口が減少し、医療・介護に必要な費用、人材の不足が一気に加速すると言われ、現状の医療・介護体制では、人生の最期まで安心して医療や介護が受けられない状況も生まれてくる可能性があるというのです。

そのような厳しい状況の中、重度の要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される「地域包括ケアシステム」が必要であり、稲城市も医師会をはじめ、関係する各機関と連携し、「地域包括ケアシステム」の整備を進めています。

私も在宅医療の担い手の一人として、最期まで住み慣れた地域や自宅で安心して過ごせるよう、そして稲城市のこれからの医療、介護をどのようにしていくか考えながら診療を行っています。